

柚木玉郎 ゆきぎら 文人畫家。慶應元年八月二十一日備中國生乳、昭和十八年十月二十五日歿（八五—一九四三）。講方格、字子爰、通稱梶雄。別號雙登齋主人、小鋤重館（館）主人、澆花園主人、玉郎生、玉郎道人、瓊島仙客、瓊島仙館主人等。松山藩吟味役柚木玉洲の長男。明治二十二年帝國大學農科大學卒。縣農會幹事、技師として養鶏を研究、自ら鴉卵器を發明、また銀行、會社重役を務めた。一方少時より信原藤陰、鎌田玄溪等を嚮學せり、森春清、三島中洲、長尾雨山等を詩せり。以下部鳴鶴の書を、南畫を清人胡鐵梅の學び、中年よりは詩畫畫二昧に至つた。日本美術協會助議員、表東書道院、平安書道院審査員、興亞書道聯盟總務等歴任。

著書に『玉郎蘭竹』全二冊（乾卷一蘭之部・昭和九年十一月十五頁、坤卷一竹之部・十年五月十二頁岡山・益聲會）、『西爽亭墨緣』全二冊（昭和十一年九月二十日柚木久太刊）、『雙登齋瑣談』（昭和十七年四月十五日柚木久太校刊）、『玉郎詩牋稿』（昭和十四年八月二十日柚木久太刊）等。歿後『西爽亭懷舊尺牘』（昭和十九年四月一日柚木久太編刊）出版。

